

朝尾直弘一吉川真司一石川登志雄一水本邦彦一飯塚一幸

# 京都府の歴史



# 京都府の歴史



## 加茂町内の戦没者一覧

年次	中国	仏印	太平洋諸島・洋上	フィリピン	ボルネオ・ニューギニア	タイ・ビルマ・インド	沖縄	内地	ソ連	その他・不明	計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
昭和13年	6							1			7
14年	5							1			6
15年	3							1			4
16年				1				1			2
17年	3		1	8	1			3		1	17
18年	3		2	3				1			9
19年	14		16	37	15	28		4		3	117
20年	21	1		46	9	6	17	12	1	2	115
21年以降	6					1		8	3		18
計	61	1	19	95	25	35	17	32	4	6	295

『加茂町史』第3巻より作成。

町内会結成式が開かれ、これにより半世紀近く続いた共同組合が消滅した。戦局の悪化が進むと、市民生活への影響も拡大した。昭和十八年には大文字だいもんじの送り火が中止され、かわって八月十六日の朝、錦林学区きんりん国民学校生などが白い上着を着て大文字山にのぼりラジオ体操を実施、「白い大文字」が行われた（久津間保治『学童疎開』）。翌年七月からは京都市内での建物疎開がはじまり、敗戦までに二万戸近い建物が十分な補償もないまま強制的に取りこわされた。

京都市と舞鶴市では、昭和二十年にはいって学童疎開が行われた。その数は、縁故疎開が京都市二万三三七九人、舞鶴市三七九九人、集団疎開が京都市一万三八二九人、舞鶴市一三三一人にのぼり、集団疎開の受入れ先は府内一三四町村におよんだ（井口和起『学童疎開』の時代）。久津間保治『学童疎開』。この学童疎開を促したのは本土空襲の本格化である。京都府でも、



昭和二十年七月二十九・三十の両日、舞鶴市がB29による空襲をうけ、三十日には宮津・峰山も被害にあり、さらに同日伊根沖いねおきに停泊していた艦船も爆撃されている。長岡京市でも七月十九日、軍需工場が建ちならんでいた神足駅周辺こうたりに機銃掃射きじゆうそうしやが加えられた。これに対し京都市の場合、一月十六日の東山区馬町うままち、六月二十六日の上京区出水でみずなど、いくつかの空襲があつたが、他の大都市とくらべるとその規模は小さい。しかし京都の空襲被害が小さかつたのは、アメリカが日本の文化財を保護するために爆撃をひかえたからではなく、京都が原子爆弾の有力な投下目標の一つだったからである。こうした事実があきらかにされたのは最近であり（吉田守男「京都小空襲論」『日本史研究』第二五一号）、歴史的事実の重さをわれわれに訴えている。

## 2 戦後京都の半世紀

### 占領下の京都府●

昭和二十（一九四五）年九月二十五日、約三〇〇〇人にのぼる連合軍第六軍のアメリカ兵が和歌山から久世郡大久保村おおくぼに到着し、京都府内へはいった。二十七日には四条しじょう烏丸からすまの大建ビルに司令部を設置し、占領行政を開始した。京都市におかれた第六軍の司令部は、西日本全体の占領行政を管轄する役割をおっており、二十九日、司令官クルーガー大将が入洛した。その後、ステーションホテル・京都大学楽友会館らくゆうなどが追加接收されていく。京都御苑も翌年七月一日に占領軍の宿舎敷地として接收する旨の通告をうけたが、これは日本側の陳情によって取止めとなり、かわって植物園が接收された。一方、二十年十月下旬、